

古代史(邪馬台国)サミット in高千穂

日本民族のルーツに迫る、最新の

古代史論争

古代日本の中心は、
果たして「九州」か?「畿内」か?「山陰」か?

近年、日本古代史を巡る状況に大きな変化が生まれた。門脇禎二氏の畿内説から九州説への転換や、梅原猛氏の自説の撤回による出雲王朝実在論などである。奇しくも古事記1300年を経て、2013年は60年ぶりの出雲大社の遷宮と、20年ぶりの伊勢神宮の遷宮が重なる年となった。

人類社会世界約200カ国地域の中で、未だにその国の歴史が不明のままで分かっていないのは、唯一日本の国だけである。この国の歴史の謎の解明は、今まさに国家的課題・民族的課題となっている。また、日本中の古代史研究家を網羅する「全国邪馬台国連絡協議会」の設立作業も始まっている。

この時期に、邪馬台国論争の中心点を占める「九州説」、「畿内説」、「山陰説」の最新の論考を一堂に会し、ここに民族的・国家的課題への壮大な挑戦を行う。



九州説

講師
パネリスト

高島 忠平

(学校法人旭学園 佐賀女子短期大学 理事長)

吉野ヶ里遺跡の発掘調査、保存整備の計画・指揮をとる。邪馬台国は九州にあった蓋然性が高いと判断。邪馬台国九州説。主な著書:「吉野ヶ里と古代遺跡」学習研究社、「邪馬台国九州説と考古学・邪馬台国が見えた」学生社、など。



畿内説

講師
パネリスト

岸本 直文

(大阪市立大学大学院 文学研究科 准教授)

古墳時代を中心とした研究を展開。247年に没した「卑弥呼」の墓は、初代の倭国王墓で巨大前方後円墳である「箸墓古墳」。「ヤマトトビモソヒメ」を卑弥呼と比定。主な著書:「巨大古墳の成立」、「史跡で読む日本の歴史・古墳時代」吉川弘文館、など。



山陰説

講師
パネリスト

田中 文也

(鳥根県立大学北東アジア研究センター市民研究員)

歴史学・考古学だけでなく、膨大な自然科学・民俗学・外国の資料など全ての学問分野を総合的に解析し、古代日本は山陰地方を中心に展開していたと提唱。主な著書:「新説 邪馬台国山陰説」梓書院、「実在した高天原・山陰説補論」梓書院、など。

- 開催日時 平成25年**11月2日(土)** 午後**1時30分**開演(午後1時開場、5時終了)
- 会場 ハワイアロハホール メインホール (鳥取県湯梨浜町) 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬584
- 参加費 **2,000円**(サミット大会パンフレット並びに資料代として) <チケット取り扱い所> 今井書店グループ

後 援 湯梨浜町、真庭市、新日本海新聞社、テレビせとうち、鳥取県経済同友会中部地区、鳥取県中小企業青年中央会、今井印刷、梓書院、邪馬台国の会、邪馬台国を考える会、渡来人研究会、九州の歴史と文化を楽しむ会、日留山歴史研究会、比婆山のロマンを楽しむ会、八頭郷土歴史研究会、月詠会、全国邪馬台国連絡協議会設立準備委員会

主 催 山陰古代史研究会